

第2章 小学生の学習観・成績観

## 第2章 小学生の学習観・成績観

樋田大二郎  
(聖心女子大学助教授)

# 第1節 自分の成績をどうとらえているか

## 1. 成績の自己評価と希望する成績

【児童は正規分布曲線のような割合で自分の成績の自己認識をしている。児童たちは、自分の成績を認識する機会をしっかりと(?)与えられている。】(図2-1)

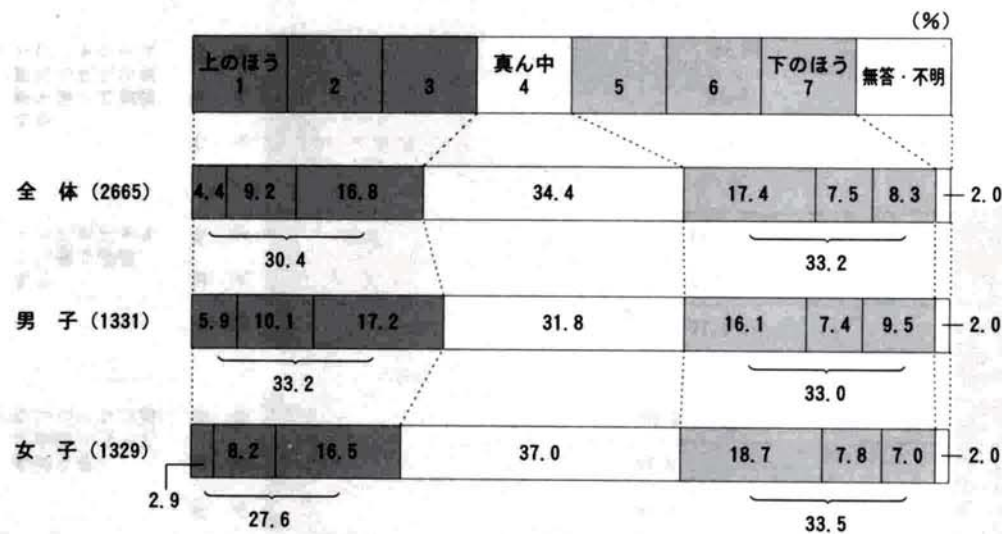
児童たちが認識している自分の成績は、図2-1にあるように、正規分布の曲線に近い。児童たちは、自分の成績を認識する機会をしっかりと与えられているようだ。性別では、男子のほうが女子よりも自分の成績を上位だと答えている割合が高い。

Q9

あなたの学校での成せきについておききます。

A. あなたの今の成せきは、クラスの中でどのくらいですか。

図2-1 成績の自己評価



## 2. がんばればとれると思う成績

【できることなら上位の成績をとりたいと希望する児童が84.5%。非常に高い水準の欲求を示している。努力すればどのくらいの成績がとれるかは、81.1%の児童が上位と答えている。この値は、希望する成績の84.5%とほぼ同じである。児童は自分の可能性を強く信じている。ただしこの値を成績別にみると、成績下位者では、55.3%と低い。】(図2-2、図2-3、表2-1)

Q9

あなたの学校での成せきについておききます。

B. あなたは、どのくらいの成せきがとれたらいいと思いますか。

C. それでは、今の成せきは別として、あなたがうんとがんばれば、どのくらいの成せきがとれると思いますか。

どのくらいの成績をとりたいか希望を尋ねた結果が図2-2である。全体では84.5%が上位を希望し、10.4%が中位を希望し、下位でもいいと答えているのは3.9%であった。欲求水準を下げることなく、非常に高い希望を持っている。性別では、女子のほうがやや高くなっている。

次に図2-3でがんばればとれると思う成

績を見てみよう。81.1%の児童が上位と答えている。この値は、希望する成績の84.5%とほぼ同じである。また、この傾向は性別でほとんど差はない。こうした数字の背景には、日本人の「努力信仰」、すなわち努力すれば願いがかなうという信仰の存在や、教師や親が小5の段階の児童に対しては、クーリング・ダウンするより(かなはずのない希望を持つことを押さえるより)、ウォーミング・アップしている(様々な可能性を求めさせるように指導している)という教育事情が働いているものと思われる。

最後に、現在の成績別に「希望する成績(①)」と「努力すれば可能だと思う成績(②)」をみたものが表2-1である。まず、「希望する成績」からみると、成績上位者の96.8%が上位をあげているのに対して、中位ではやや下がり90.2%、下位者ではさらに下がり70.1%となっている。成績が下位の者ほど、希望が控えめになっている。また、「努力すれば可能だと思う成績」で上位をあげているのは、成績上位者が97.4%、中位者が93.0%であるのに対して、下位者ではその値が大きく下がり55.3%となっている。成績下位者に関しては、ウォーミング・アップがうまく働かないか、あるいは小5ですすでにクーリング・ダウンが働いているのである。



図2-2 とれたらいいと思う成績

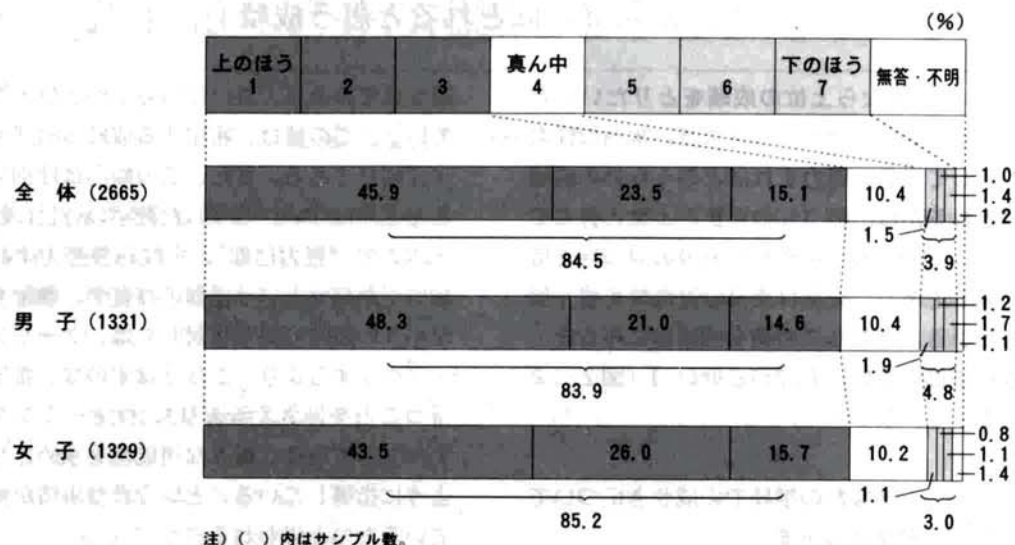


図2-3 がんばればとれると思う成績

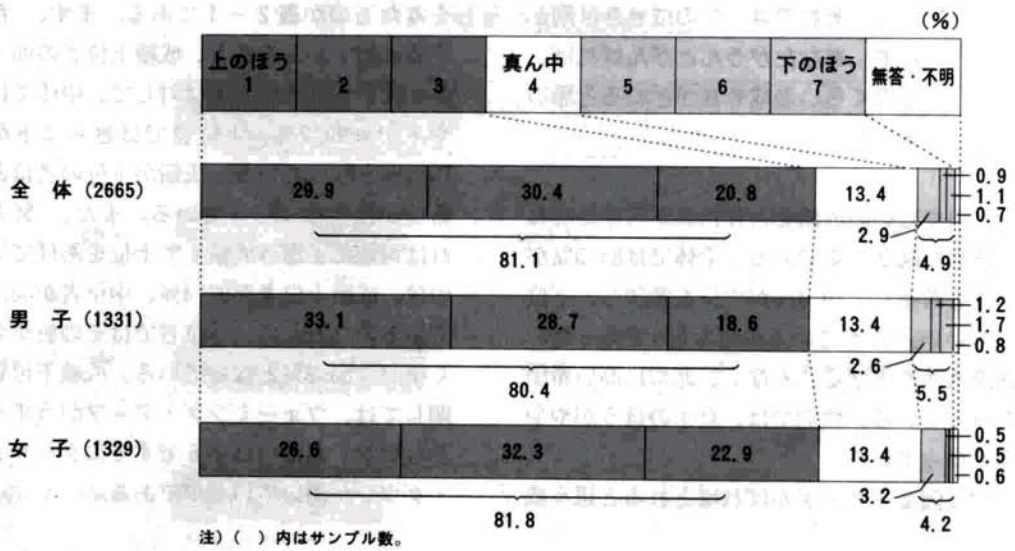


表2-1 現在の成績(成績の自己評価)別にみたとれたらいいと思う成績・がんばればとれると思う成績

現在の成績	上位	①とれたらいいと思う成績			②がんばればとれると思う成績		
		上位	中位	下位	上位	中位	下位
上位 (809)	96.8	1.6	1.0	97.4	1.7	0.7	
中位 (916)	90.2	7.8	1.7	93.0	5.1	1.7	
下位 (886)	70.1	21.0	8.2	55.3	32.8	11.7	

注) ( ) 内はサンプル数。